

＜ オオフサモ (*Myriophyllum brasiliense* Cambess) アリノトウグサ科 ＞



特定外来生物に二次指定された（2005年2月）。
ブラジル原産。アリノトウグサ科。水を吸って生きる抽水植物（体の主な部分はすべて水の上に出ている）。

葉は白っぽい緑色をしていて、夕方はたれる。熱帯魚店などで、「パロットフェザー」という名前で売られていた。フサモ属は世界で約60種が知られ、日本には4種が自生する。

1920年頃ドイツ人が持参し、兵庫県須磨寺の池で野生化したので、スマフサモ、又マフサモの別名がある。雌株のみ観賞用として導入されたが、雌株のみで地下茎で栄養繁殖できる。

温暖帯～熱帯の池沼、ため池、河川、水路、水田の浅水中に生育し、繁茂して在来種との競合、水質の悪化、水流の阻害が報告されている。落合川で順絶滅危惧種「ナガエミクリ」を抑圧するとの報告がある。開花期は6月。オーストラリアでは持ち込み規制植物となっている。

（「外来植物の科学成分と雑草性リスク評価」

（独）農業環境技術研究所 2008）

←秋穂の用水用の川。木のように見えます。

間にあるのはクレソン（オランダガラシ。要注意外来生物）です。

クレソンの野生化もかなりの場所で見られます。

オオフサモの場合は、**茎のかけら数センチでも繁殖できる**ため「運搬」が禁止です。つまり**切り取って歩くこともできません**。かけらが残っただけでもまた増える結果となるので、完全に取り除く必要があります。河川の場合、下流に流されて分布が広がってしまいます。防除はかなり困難です。注意外来生物のカナダモなどの水草も同じように増えます。

周南市内ではまだ野生化は見られませんが、山口市秋穂付近や下関市・宇部市は分布の報告があります。